

鎌倉市 市庁舎現在地 利活用基本構想 (素案)

市庁舎現在地について、新庁舎の深沢での整備とともに、その価値を活かし、鎌倉の拠点として利活用するために、取組を進めています



知恵をともに創る



図表 基本理念と「知恵」の関係

最先端の共生共創のまちづくりを
民間機能の力も活かしてけん引

まちや社会にいきる知恵を
共創する拠点へ

鎌倉の拠点である市庁舎現在地は、手続や相談といった行政サービス機能を維持します。その上で、先人から受け継いだ情報や知識が万人にひらかれ、多様性の視点で人・物・事の交流をむすぶ、まちや社会にいきる“知恵”を共創する拠点となるようハード・ソフトともに充実します。情報あふれる図書館を中心に手続や相談、防災も支える、学びあい、交流しあえる拠点とします。

ビジョン - 基本理念 -

市庁舎現在地の利活用の基本となる考え方



ビジョンをつくるにあたって

～わたしのかまくら・わたしたちのかまくら～

「わたし」個人の視点で見るまち鎌倉と、「わたしたち」公共の視点
「鎌倉」に対する考え方に違いがあって当たり前
市民対話で浮かび上がった多様な価値観の包摂こそが持続可能なまち、強くつながったまちを築いていくために必要という思い



「わたしのかまくら・わたしたちのかまくら」は、多様な価値観の共有という市民対話で紡いだ想い (大切なメッセージ)

ふみくら(文庫)とは

「ふみくら」(文庫)は資料を整理して保管する建物を意味する言葉で、その起源は古く、奈良時代にさかのぼります。鎌倉時代には、武家文化における公の資料を保管したものや御家人などの屋敷にも「ふみくら」が設けられており、書写などの活動も行われた場であったそうです。

市庁舎現在地利活用のイメージ

知識をたくわえる図書館と、
 手続や相談、防災も支える
 行政サービスの提供の場

屋内外でまちとつながり、
 まちの移動を支える
 オープンスペース、
 まちなかの緑と憩いの空間



世代性別を超えた交流で、
 学び合い、知見を得る
 学びと交流の場

公共と民間の併設で、
 快適な施設をととのえる
 まちにひらかれた
 まちと人と情報の結節空間

深沢拠点 | 新たなライフスタイルの形成

● 本庁舎の移転先、シビックエリアの形成

大船拠点 | 地域経済の推進



鎌倉拠点 | 鎌倉のブランド力向上

● 市民サービスの提供・公共施設再編と民間機能の導入による賑わいや憩いの創出

市庁舎現在地

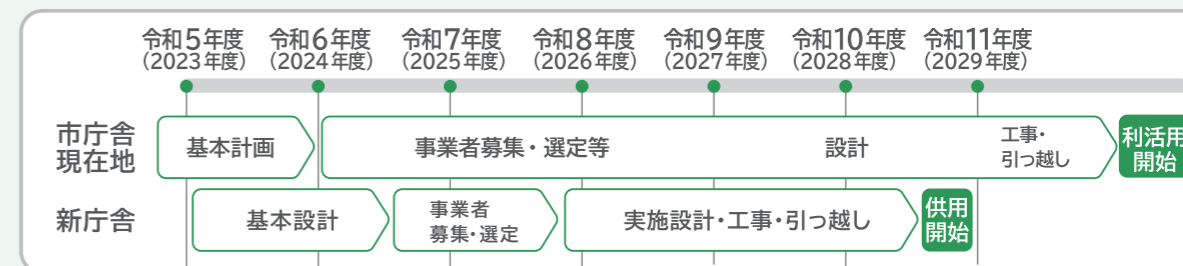


市庁舎現在地の利活用と鎌倉のまちづくり

鎌倉市全体の生活・文化・経済の向上につながる波及効果を生み出すべく、3つの拠点の地域特性を生かし、都市機能の集約と市民機能の向上を図ります。

今後の進め方

市庁舎現在地のビジョンの実現に向けて、利活用に動き出します。



もっと詳しく知りたい方は

本編では、市民対話の記録などについても掲載しています。詳しくはこちらをご覧ください。

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/chousya-seibi/index.html>

発行者：鎌倉市まちづくり計画部市街地整備課庁舎整備担当 電話：0467-23-3000 (内線 2687)

